

ひさいしや

被災者として

ちいき いちいん

地域の「員」として

災害ボランティア

活動

ひがしにほんだいしんさい
東日本大震災では、多

かた
くの方がボランティア活

か
動に駆けつけていました。

とうかいがあく
倒壊家屋やがれきの片

えきじょうかげんしやう
付け、液状化現象による

どるじよあま
泥の除去作業などでは、

けんせつじき
建設企業の重機が活躍し

けんかく
ましたが、せまくて車や

じやうきはい
重機が入ることができ

ばしよかたづ
ない場所などの片付けは、

ひとあこな
人の手で行われました。

ちばけんしやかいふくしきやうぎかい
千葉県社会福祉協議会

がつにちとうじつ
によると、3月11日当日

かん
から、ボランティアに関

たいさくほんぶ
する対策本部が設置され、

けんないしよせつち
県内5か所で設置された

ボランティアセンターで

の
は、延べ1万8,000

いじょうかた
以上の方に、がれき

かたづ
の片付けや衣料品、食料

ひん
品などの支援物資の提供
ていきやう
などのボランティア活動
かっとう
がありました。

けんせつじきぎやう
建設企業や関係する団

たい
体は、自分たちも被災者

たちば
の立場ではありませんが、

ちいき
地域を支える一員として、

かっとう
このようなボランティア

かっとう
活動への義援金の提供な

あこな
ども行いました。